

●講演会 ●  
 「らしさ」を脱ぎ捨てて  
 性別にとらわれない多様な生き方  
 講師 田中俊之さん  
 (大正大学心理社会学部准教授)

「男は仕事、女は家庭」から「男も女も、仕事も家庭も」へと変化しています。

第4次男女共



同参画基本計画では女性の活躍のために男性の働き方・暮らし方の見直しが必要なこと、男性中心型労働慣行等を変革し、職場、地域、家庭等、あらゆる場面における施策を充実させるとしています。しかしどうアプローチすべきか実は国もよくわかっていません。1日8時間週40時間働くことが「最低限」で、それ以上が「普通」。おかしいことでも繰り返してしまっていると当たり前になってしまします。家に父親がいると子どもも母親も不安になります。父親はいないのが当たり前、いるとおかしいと思ってしまうのです。女性が仕事と家庭を両立するためには、男性が家庭に帰ることを受け入れられるかが大事になります。

2009年頃までは結婚・妊娠・出産によつて仕事を辞める女性が67%程度いました。2010年代には育児休暇を取得するなど仕事を辞めず働く女性が増えましたが、正社員ではなくパートタイムで働く人たちが多いのが現実です。

男性学とは、男性が男性であるがゆえに抱える悩みや葛藤を対象にした学問で、30年程の歴史です。働き過ぎ、自殺、過労死、そして地域や家庭で居場所がない等、男性ならではの問題を考えられています。

雑談が苦手な男性も多いのではないのでしょうか。男性は要件を伝えることを目的とした要件伝達型コミュニケーションを得意とします。しかし大事なものは相手の気持ちに寄り添い、相手との共感を目的とした関係形成型コミュニケーションなのです。おしゃべりはムダではなく、それ自体が楽しいもの。雑談をすることで気持ちが楽になることもあります。

中高年男性にインタビュすると、趣味がない、友達がいなくてよく聞きます。仕事をしているしかなないので、これは「らしさ」とらわれた生き方をしていくからです。性別にとらわれず、得意な方が得意なことをやるのがいいのです。

私の生まれ育った清瀬市。愛着のあるこの清瀬市が誰にとっても住みやすい市になって欲しいと思います。

(まとめ 佐野)

●映画 ●  
 『飯館村の母ちゃんたち』上映と  
 古居みずえ監督トーク

撮影時、高い線量で家に戻れない中「笑ってねえどやっつらん



ね」と笑顔絶やさぬ母ちゃんたち。その笑顔の影に胸が痛みます。一部を除き避難解除された今も取材を続ける監督のトークと、様々な立場で福島にかかわる会場からの声に、参加者それぞれが深く考える場となりました。

(桑山)

●子ども ●  
 第3回子どもが作った  
 人権かるたをとろう

今年、清瀬

第三小学校6年生と第四小学校5年生がかるたを作成。思いの詰まった札を読み上げると、子どもも大人も真剣な眼差しで絵札を取り合い、子どもたちだけの対戦では、白熱した対決に歓声が上り、会場は大いに盛り上がりました。(川村)



●音楽 ●  
 心とき放つ ゴスペルコンサート  
 出演者 清瀬、コスベル

「音楽は希望」と語る清瀬、コスベルの皆さん。各曲の解説も交え、趣向の凝らされた演出もあり、曲に織り込まれた喜び・悲しみ等の様々な感情が、いきいきと歌い上げら



れました。  
 ●ワークショップ ●  
 スッキリ爽やかコミュニケーション  
 講師 大沼もと子さん  
 (アサーティブトレーナー)

自分の気持ちと対等に相手と対等に表現することで、コミュニケーションの悩みが楽になる方法を学んだ後、5〜6人のグループになって、参加者一人ひとりが体感しました。初めて会う人とも、お互いを肯定的に表現しあうことで緊張感もほぐれ、和やかな雰囲気になりました。(高橋)



●登録団体・サポーターによる  
 展示・バザー ●

バザーは日用品だけでなく野菜、手作りのお菓子や小物等、幅広く品揃えされていて、たくさんの方で賑わっていました。展示では、写真やイラストも使われ、各団体の活動や想いがわかりやすく作成されていました。

(竹下)

